

～ 慢性心不全看護認定看護師の役割と活動 ～

高齢化が進む中、心不全患者は増加し、心不全パンデミックと呼ばれる時代となっています。そのような背景を受け、「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」が2018年に成立し、「循環器病対策推進基本計画」に基づく取り組みがすすめられています。

当施設は、大学病院として最新かつ高度な医療を担う役割があり、看護師も自己研鑽を積む中で、多職種と連携・協働するスキルが求められています。また、心不全患者は、増悪と緩解を繰り返す中、徐々にまたは急速に病状が進行する特徴があるため、集中治療室、一般病棟、外来、在宅などの、シームレスな継続したケアも求められています。

そのような背景を受け、当施設では、「循環器看護チーム（通称JKT：Junkan-ki Kango Team）」が2013年に立ち上がり、循環器看護の質の向上を目指した活動を開始しています。JKTの主な活動は1.循環器関連部署の連携強化、2.標準看護ケアの体制整備、3.循環器看護に関する知識向上の3本柱で、循環器看護に関わるスペシャリスト・部署のスタッフなどが集結し、活動しています。



循環器看護チーム（JKT）から発行されている「JKT便り」と、「心臓病ハンドブック」

そのようなチームの中で、慢性心不全看護認定看護師として行った大きな取り組みの一つが、「心臓病ハンドブック」の作成です。それまでは、それぞれの職種・部署が作成した、指導用パンフレットを使用していたため、患者によってはパンフレットが3～4冊配付されている現状がありました。そのような状況を改善するため、職種や部署を超えて統一した視点で指導を行うことを目的に、「心臓病ハンドブック」を作成し、波及していきました。同じ教材を用いて指導することで、患者の混乱も減少し、多職種・部署間の連携強化にもつながっていると実感しています。

そして、慢性心不全看護認定看護師としては、院内だけでなく、院外においても活動することでより広い視野をもち、現場に還元することもできているのではないかと実感しています。その一つが、「心不全療養指導士」の育成で、2021年度にできた新しい資格ではありますが、4名の看護師が自己研鑽の一環として、資格を取得しました。本資格は、多職種が取得可能な資格であり、その点においても、多職種協働の促進により、質の高い心不全ケアの提供につながるのではないかと考えています。心不全ケアの質の向上を目指し、さまざまな職種や、部署、施設間を超えた協働をより進めていきたいと思っています。